

改憲へ突き進む安倍打倒を

米朝会谈決裂と世界戦争の危機をゼネストと国際連帯で世界革命へ

辺野古新基地阻止、杉並区議選必勝を

ストでJRダイヤ改阻止へ

帝国主義の延命をかけた新自由主義政策が破綻し、その矛盾が戦争・失業・

貧困・飢餓、社会の崩壊として世界中で進行している。これに対して労働者階

級人民の怒りと闘いのうねりが全地球に広がっている。3度目の世界戦争か、

それともロシア革命を引き継ぐプロレタリア革命の勝利か——歴史選択をかけた

決戦の時だ。その勝利をかけて春の闘いに総決起しよう。3月JRダイヤ改

定合理化にストライキで闘う動労千葉—動労総連合と共に、職場から19春闘

勝利へ総決起しよう。辺野古新基地建設を強行する安倍を絶対に打倒しよう。

4月杉並区議選闘争を、改憲阻止闘争の勝利をかけて全力で闘おう。

米中対決と朝鮮半島危機

2月末にハノイで行われた米朝首脳会谈は決裂した。昨年6月に始まった米

朝首脳会谈は、そもそも没落する米帝にとって米中貿易戦争と一体の、米帝の

延命をかけた朝鮮半島・東アジアへの侵略戦争政策そのものである。新たな

帝国主義侵略戦争の時代への通過点である。

1回目の首脳会谈の時と比べても、米中貿易戦争の激化をはじめ米帝の没落

と世界戦争の危機は一層深まっている。その情勢は、「トップ外交」「ディール

(取引)外交」の成立する余地を奪い、米帝と北朝鮮双方を、生き残りをかけ

たむき出しの衝突、危機と破綻に追い込んでいる。

会談 2 日目に米帝の側はボルトン大統領補佐官（国家安全保障担当）がテールに着いた。ボルトンはこの間の INF（中距離核戦力）全廃条約の破棄や、イラン核合意からの一方的離脱を主導した人物である。イランや北朝鮮への先制攻撃を主張するなど、米帝の危機と凶暴性を最も鋭く体现する極反動だ。会談では米帝の側が、北朝鮮が公表している寧辺（ニョンビョン）以外の核兵器製造施設の存在を突きつけ、その廃棄を要求し、さらに生物・化学兵器についても報告の義務を迫り、交渉を決裂に追い込んだ。

決裂したハノイ会談を、ボルトンは「失敗ではなく、成功だった。トランプ大統領はアメリカの国益を守って前進させた」と強調した（3月3日）。

米議会での「ロシア疑惑」の追及などでますます追い詰められているトランプ政権は、北朝鮮・朝鮮半島、中国への侵略と侵略戦争の策動を強めている。

一方、北朝鮮キムジョンウン体制の危機もますます激化している。国連による経済制裁は、北朝鮮の人民を人質にとった一個の戦争行為であり、とりわけ石油の禁輸措置は、北朝鮮人民の生活と生命を危機に陥れている。これは断じて許せない。キムジョンウンは労働者人民に矛盾を押しつけて、核兵器の開発・保有に延命をかけているが、国内危機は体制の崩壊に直結するような限界点に達している。

安倍は革命を恐れている

重大なのは安倍政権の対応である。ハノイ会談について安倍は「安易な譲歩

をしなかったトランプ大統領の決断を全面的に支持する」と表明した。朝鮮の南北統一に向かう流れを恐れ、「拉致問題」を排外主義をあおるために利用してきた安倍は、この機会を改憲と戦争体制づくり、軍事力の増強のために利用しようとしている。しかし、同時に第 2 次世界大戦の敗戦帝国主義としての決定的な限界、脆弱（ぜいじゃく）性も突き出されている。何よりも日帝・安倍政権は、朝鮮半島・中国一東アジアの情勢を最深部で規定するプロレタリア革命の現実性におびえている。

韓国では 3 月 1 日、1919 年「3・1 独立運動」の 100 周年を記念して、各地で行動が行われた。プサンでは民主労総が主導して市民大会を開催し、日本政府や戦犯企業に謝罪・賠償を求めた。日本政府は、敗戦から今日に至るまで七十余年、朝鮮侵略と植民地支配の大罪に対して、一切の謝罪も償いも拒否し続けている。「韓国の併合は合法的に行われた」「日本はいいことをしようとした」などと開き直っているありさまだ。

3 月 1 日の演説でムンジェイン大統領が、「(3・1 独立運動への弾圧で) 約 7500 人の朝鮮人が殺害された」と語ったことに対して、安倍政権・外務省は「不確かな数字だ」と韓国に申し入れ、大虐殺の歴史の抹殺をはかるなど、まったく許しがたい対応を続けている。安倍政権はパククネ打倒の「ろうそく革命」の中から生まれたムンジェイン政権を敵視し、外務省幹部は「文政権は、韓国というより北朝鮮そのものだ。隣の国はないものと思って生きるしかない」と語っている（3 月 2 日付産経新聞）。そしてレーダー照射事件のねつ造や韓国国会議長への謝罪要求など、すさまじい排外主義を扇動し、朝鮮半島への侵略戦争策動を強めている。

求められているものは、日本労働者階級人民の決起だ。民主労総を先頭とす

かんこくろうどうしやじんみん れんたい たたか かいけん せんそう つ すす じこくせいふ あべだとう
 韓 国 労 働 者 人 民 に 連 帯 し て 闘 お う 。 改 憲 ・ 戦 争 に 突 き 進 む 自 国 政 府 一 安 倍 打 倒
 こくさいれんたい はつてん そうけつき
 へ、 国 際 連 帯 の 発 展 を か け て 総 決 起 し よ う 。

しゅんとうしやうり ひせいきしよく
 春 闘 勝 利、 非 正 規 職 な く せ

あべせいけん おきなわけんみんとうひよう しんきちぜつたいはんたい いしひようめい けつていき だげき
 安 倍 政 権 は、 沖 縄 県 民 投 票 で の 「 新 基 地 絶 対 反 対 」 の 意 思 表 明 に 決 定 的 な 打 撃
 う ぜつたい へのこしんきち そし
 を 受 け て い る 。 絶 対 に 辺 野 古 新 基 地 を 阻 止 し よ う 。

しゅんとう こくてつけつせん ぜんこく ひろ じようせい とうらい
 そ じ て 19 春 闘 を め ぐ っ て 国 鉄 決 戦 と、 ス ト ラ イ キ が 全 国 に 広 が る 情 勢 が 到 来
 して いる。 この 危 機 の 激 し さ ゆ え に、 安 倍 政 権 は 4 月 統 一 地 方 選 で 真 っ 向 か ら 改 憲
 きき はげ あべせいけん がつとういつち ほうせん ま こう かいけん
 を 宣 伝 す る 方 針 を 決 定 し、 改 憲 へ の 国 民 運 動 づ く り に 踏 み 出 し た。 4 月 21 日 投 票
 せん でん ほうしん けつてい かいけん こくみんうんどう ふ だ がつ にちとうひよう
 の 東 京 ・ 杉 並 区 議 選 は、 改 憲 阻 止 決 戦 の 最 大 最 高 の 戦 場 と な っ た。 天 皇 代 替 わ
 とうきやう すぎなみくぎせん かいけん そし けつせん さいだいさいこう せんじやう てんのうだい
 り 攻 撃 と 対 決 し、 全 学 連 の ほ ら ぐ ち と も こ さ ん の 必 勝 へ 闘 お う 。

ひばくち ひろしま かいけん せんそう そし おし ご ふた た せんじやう おく ひろしま
 被 爆 地 ・ 広 島 か ら 「 改 憲 ・ 戦 争 阻 止 ！ 教 え 子 を 再 び 戦 場 に 送 ら な い 広 島
 きやうしよくいん にんせいめい はつ けつていき ぶき ぜんこく
 教 職 員 1 0 0 人 声 明 」 が 発 せ ら れ た こ と は 決 定 的 で あ る 。 こ れ を 武 器 に、 全 国
 かいけん そし だいうんどう
 に 改 憲 阻 止 の 大 運 動 を つ く ろ う 。

ひがし にほん ふかざわゆうじしやちやう みずか ごうれい ろうどうくみあい
 J R 東 日 本 は 深 沢 祐 二 社 長 が 自 ら 号 令 を かけ、 「 労 働 組 合 員 で な い 」 こ と
 か にゆうじやうけん しやゆうかい ぜんたい すいしん しよくば
 を 加 入 条 件 と す る 「 社 友 会 」 づ く り を グ ル ー プ 全 体 で 推 進 し て い る 。 職 場 か
 ろうどうくみあい いつそう てつどうぎやうむ べつがいはやか てんせききやうせい こうげき いつき つよ
 ら 労 働 組 合 を 一 掃 し、 鉄 道 業 務 の 別 会 社 化 ・ 転 籍 強 制 な ど、 攻 撃 を 一 気 に 強 め
 よう と し て い る 。 「 労 働 組 合 の な い 社 会 」 と は ス ト ラ イ キ を 絶 滅 す る と い う こ と
 せんそう さんぎやうほうこくかい どうじ しほんか かいきゆう
 で あ り、 戦 争 の た め の 「 産 業 報 国 会 」 づ く り で あ る 。 同 時 に 資 本 家 階 級 が ど れ
 ろうどうしや だんけつ きやうふ しめ
 ほ ど 労 働 者 の 団 結、 ス ト ラ イ キ を 恐 怖 し て い る か を 示 し て い る 。

たい どうろうちば ていねんご さいこやう うんてんし きやうせい
 こ れ に 対 し て 動 労 千 葉 は、 エ ル ダ ー (定 年 後 の 再 雇 用) 運 転 士 に 強 制 さ れ て
 みきわ しけん そし しやうり つづ しゅんとうしやうり がつ かいごうりか
 いた 「 見 極 め 試 験 」 を 阻 止 し た 勝 利 に 続 き、 19 春 闘 勝 利、 3 月 日 改 合 理 化

かいあくじよう む いんきん む せい ど ふんさい む たたか どうろう ち ば そうけつ き しゅうかい
一 改悪 乗 務員勤務制度粉碎に向けて 闘 っている。 3・15 動労千葉総決起 集会

をともにかちとろう。 ひ せい き しよくてつばい たたか
をともにかちとろう。 非正規 職 撤廃へ 闘 おう。

ごくちゆう ねん む じつ ほし の ふみあき かいほう いま さん り づか
獄 中 44 年、 無実の星野文昭さんの解放を今こそかちとろう。 3・31 三里塚

しゅうかい ぜんこく そうけつ き
集 会に全国から総決起しよう。